

# ベツカンコおに

人の中に鬼はいる？  
人も鬼になれる  
あなたは人か 鬼か



鬼つていったい何だろう  
鬼つていったいどこにいる

原作／さねとうあきら 脚本・演出／ふじたあさや 音楽／川崎絵都夫 美術／池田ともゆき 振付／酒井麻也子  
衣裳／加納豊美 照明／坂本義美 音響／山北史郎 宣伝美術／森谷聖 制作／上保節子

山奥の笛吹峠に一匹の鬼が住んでいた。ベツカンコ面のおかしな顔をした鬼だった。

ある日鬼は、山の墓場で里の娘・ゆきと出会う。ゆきは目が見えず、そのために村の子どもたちにイジメられていた。いつも一人ぼっちのゆき。鬼はゆきをさらって山の中へ。

初めは怒っていたゆきだったが、しだいに鬼の優しさに心が動かされていく。

一緒にいる時間が長くなるにつれ、ゆきは鬼の顔が見たくなった。みんなが笑う「ベツカンコ面」した大好きなベツカンコ鬼の顔が見たくなったのだ。

鬼は、ゆきの目をあけるため、幻の「リョウカクキ龍眼草」を探しに行く。

その頃、ゆきを鬼にさらわれたと知った獵師のお父は鉄砲を持ち鬼を探して山の中を歩いていた…。

この作品は多くの劇団で上演され、海外でも上演されています。さねとうあきらさんの差別を憎む思いは世界の人々の心を捕らえたのです。昔話のかたちをとった児童文学の傑作を、伝統演劇の手法を使って舞台化したこの劇は「おにとは何か？何が本当のおになのか？」を問いかけています。  
(ふじたあさや演出の言葉より)



劇団創立70余年「子どもたちに夢を」小中学校の演劇教室を中心に活動